

令和8年度第2回企画展

「民のために生涯を捧げた男たち—
寿庵と長英、それぞれの道—」開催中

只今、11月29日(日)まで令和8年度第2回企画展「民のために生涯を捧げた男たち—寿庵と長英、それぞれの道—」を開催しております。

キリシタン武士としてこの水沢・福原、胆沢の地を任された後藤寿庵。蘭学者として日本の近代化の先駆けとなった高野長英。ともに庶民のために、その生涯をささげました。



後藤寿庵



高野長英

後藤寿庵の出自と終焉は、諸説あります。現存する資料などから、少なくとも慶長19(1614)年の大坂冬の陣から元和7(1621)年の奉答文の発送、元和9(1623)年のキリスト教改宗の説得までの時期に活躍しています。

高野長英は文化元(1804)年に現在の奥州市水沢吉小路に生まれた蘭学者です。日本各地を潜行し、医療、天文学、兵学などの著訳に力を注ぎます。嘉永3(1850)年、江戸の隠れ家で幕府役人に襲われ最後を遂げます。

本企画展では江戸時代、活躍した時期は異なりますが、どちらも幕府による弾圧を受けながらも、土木技術という共通の視点

で、庶民のためにそれぞれの生涯を捧げた二人の生きざまを次の5つのエピソードから紹介しています。

- エピソードⅠ 寿庵と長英
- エピソードⅡ 4つの顔をもつ寿庵
- エピソードⅢ 開拓者としての寿庵
- エピソードⅣ 兵学者・設計者としての長英
- エピソードⅤ 弾圧に屈しない男たち

江戸幕府のキリシタン禁教、日本人の海外渡航禁止、そして一般人の海外貿易禁止の中で、江戸の異なる時期にともに庶民の幸せを願いながら生きた二人の偉業を紹介しております。この機会にぜひ、ご来館いただければと思います。皆様のご来館をお待ちしております。

秋の重要文化財の公開

第2回企画展開催期間中の10月6日(火)～11月8日(日)、秋の重要文化財の公開を合わせて実施いたします。昨年度から春と秋の2回の重要文化財の公開を行っております。好評をいただき、今年度も春と秋の2回の重要文化財の公開となります。

今回は、重要文化財、市指定文化財、寄託資料、寄贈資料、あわせて19点を展示いたします。

特に重要文化財は、「絹本著色高野長英像」、「験温管目盛翻訳」、「高野長英書状」、「高野長英手配触書」、「蘭文兵書」、「兵書値段書」、「訳書解題」、「訳業必要之書籍目録」、「遜謨尔四星編」を公開いたします。